

北陸地方整備局・北陸信越運輸局 バリアフリー教室等の取組みについて

北陸地方整備局の取組み

● 北陸地方整備局 北陸技術事務所の構内体験学習場「ほくぎひろば」における体験教室

北陸技術事務所構内には“車いす介助体験”“視覚障害者介助体験”“高齢者介助体験”ができる体験学習場「ほくぎひろば」が整備されています。

◆ 体験にあたって

- 体験受入日：月曜日～金曜日（行政機関の開庁日）
4月～10月、雨天中止
- 受入時間帯：9:30～12:00 および 13:30～16:00
- 小学生4年生以上で、どなたでも体験することができます。
- 必ず事前に予約をし、当日は受入承諾書（またはその写し）を提示してください。
- 1日の体験人数は、40人までです。
- 運動ができる服装でお願いします。
- 小学校については、1コース1名以上の成人（指導監督のできる方）の引率をお願いします。

◆ 体験コース

コース名		所要時間	人数	内容
交通バリアフリー体験 (屋外)	車いす体験	30分	12人	バリアがあることの大変さを体験し、バリアの無い街づくりの大切さを学びます。
	視覚障害者体験	30分	12人	
	高齢者体験	30分	12人	

◆ 申込みについて

- 申込み用紙を、下記までFAXまたはメールで送付してください。

北陸技術事務所 総務課

TEL : 025-231-1281

FAX : 025-231-1282

メール : hokugi_hiroba@gxb.mlit.go.jp

- 体験希望日の、1ヶ月前までにお申込みください。

- 詳細は、北陸技術事務所HPにてご確認ください。

<https://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/about/study/918/779/>

◆ 体験状況



歩車道境界ブロックを頼りに
進みます【視覚障害者体験】



ゆっくり降りましょう
【車いす体験】



高齢者体験
ちょっとした段差も気をつけて

北陸信越運輸局の取組み①

日 時： 令和4年9月13日（火） 13：45～15：00
 場 所： 万代島多目的広場（新潟県新潟市）
 参加者： 新潟市内のタクシー関係者、障害当事者など 計19名
 主 催： 北陸信越運輸局、新潟県ハイヤー・タクシー協会
 協 力： 新潟市ハイヤータクシー協会、新潟地域個人タクシー連合会

【実施概要】

お客様の多様なニーズや特性の理解、円滑なコミュニケーションの確保など、タクシー乗務員の接遇と介助の向上を目指すため、

- JPN TAXIの車椅子スロープの設置と格納
- 多様なお客様の理解とコミュニケーション
- 乗降時の介助法

の研修を、障害当事者の接遇演習を交えながら実施しました。

今回の研修では、新潟市ハイヤータクシー協会及び新潟市個人タクシー事業協同組合の方に講師として、また、視覚障害者（盲導犬ユーザー、白杖ユーザー）、車椅子利用者（手動車椅子ユーザー、電動車椅子ユーザー）の4名にも協力をいただきました。

【参加者の声】

- 障害者のお客様とのコミュニケーション（声かけ）の大切さに気づけた。
- 盲導犬ユーザーを乗せたことがなかったので乗車体験できてよかった。
- 車椅子ユーザーの接客について知ることができた。
- 障害者の生の声が聞けてよかった。今後の業務に活かしていきたい。
- 障害者と乗務員がコミュニケーションを取れる場をもっと作ってほしい。

【接遇演習の様子】



北陸信越運輸局の取組み①

日 時： 令和4年9月13日（火） 13：45～15：00

場 所： 万代島多目的広場（新潟県新潟市）

参加者： 新潟市内のタクシー関係者 20名

主 催： 北陸信越運輸局、新潟県ハイヤー・タクシー協会

協 力： 新潟市社会福祉協議会、中央区社会福祉協議会

【実施概要】

視覚障害、車椅子利用の疑似体験を通じて、乗務員としてサービスを提供する際の「気づき」を得ることを目的に、

- ・ 視野視覚を制限したアイマスクを装着しての歩行
- ・ 視覚障害者の介助方法
- ・ 車椅子の使用方法（広げ方、たたみ方、ロック）
- ・ 車椅子の利用者の介助方法（声のかけ方、坂道、段差の乗り越え）

を体験していただきました。

今回の体験会では、中央区社会福祉協議会に講師として協力をいただきました。

【参加者の声】

- ・ 相手の気持ちになることの難しさを改めて感じた。
- ・ 目の不自由な方に対する対応（特に不安軽減のための声かけ）等、体験を活用することで業務のレベルが上がると思う。
- ・ 障害を持つ方が我々に何を求めているかをくみ取る意識を高く持つよう心がけたい。
- ・ 当たり前のことを当たり前出来る新潟になって欲しいと思う。
- ・ 今回の体験会に参加できなかった方にも体験できた内容を伝えたい。

【視覚障害者疑似体験】



【車椅子疑似体験】



北陸信越運輸局の取組み①

日 時： 令和4年9月13日（火） 15：10～16：00

場 所： 万代島多目的広場（新潟県新潟市）

参加者： 新潟市内のタクシー関係者、障害当事者など
パネリスト8名、聴講者約70名

主 催： 北陸信越運輸局、新潟県ハイヤー・タクシー協会

協 力： 新潟市ハイヤータクシー協会、新潟地域個人タクシー連合会

【実施概要】

「タクシーとユニバーサル社会」「タクシーが支えるこれからのバリアフリー」をテーマに、タクシー利用者（今回は視覚障害と車椅子利用者）とタクシー乗務員の双方が信頼関係や価値を高め、ホスピタリティ（共創と相互満足）向上のヒントを探ることを目的に意見交換を行いました。

コーディネーターに、有限会社ミカユニバーサルデザインオフィス代表 中村美香 氏を迎え、障害当事者（4名）とタクシー経営者とタクシー乗務員（4名）の計8名により、誰もが快適で利用しやすいタクシーを目指して、熱心にご議論いただきました。



【パネリストの主な発言等】

〈車椅子利用者〉

- UDタクシーは知っていたが、自身が使用する電動車椅子の規格で乗降できるかが分からず、乗ってはみたかったが乗れなかったときの迷惑を考えたら依頼を躊躇してしまっていた。
- 利用したい時間に利用できなかったのも、それ以降、タクシーに乗っていない。

〈視覚障害者〉

- 盲導犬の乗車拒否ニュースなどがあるが、動物好きの運転手さんは声をかけてくれるので、それがコミュニケーションにもなっている。新潟のタクシー運転手は対応が非常に良い。
- 今まで、利用時に不便に感じたり不満に思ったことはない。

障害者が日頃感じているエピソードをコーディネーターに引き出していただき、そのエピソードを聞いたタクシー関係者の方々からは『障害のある方が、どういう思いでタクシーを利用しているか・利用したいかが分かった。』

また、今回の体験で事業者として不安な部分も明確になったので、問題解決に向けて取り組み、実際の対応時の注意点などを考えていきたい』といった発言がありました。

【聴講者からの主な意見等】

- 障害者の意見を率直に聞いてよかった。
- タクシー事業者として、利用者が「行きたい」が「行ける」環境にするために、なすべきことは何なのかを考えさせられた。
- 今後も体験会を開催してもらいたい。
- 意見交換会は事前にネタを集めておいた方が良かったのではないかな。
- 観光の企画、タクシー乗り場改善の意見交換会を開催してもらいたい。

*参加された障害当事者の方々からは『体験会や意見交換会のような意見をできる場がなかったので非常にいい企画でした』『今後もこのような当事者参加型のイベントを開催していただきたいです』という声がありましたので、いただいた意見を参考にしていながら、関係団体と連携を図り継続的に開催できるよう取り組んでいきます。

北陸信越運輸局の取組み②

日時：令和4年10月25日（火）13:00~15:10
 令和4年10月27日（木）13:00~15:10
 場所：新潟空港内2階 有料待合室
 主催：北陸信越運輸局
 協力：新潟空港ビルディング株式会社
 社会福祉法人新潟市東区社会福祉協議会
 参加者：令和4年10月25日 第1部 18名 第2部 15名
 令和4年10月27日 第1部 24名 第2部 24名

○実施概要

新潟空港関係者（グランドスタッフ、館内総合案内所スタッフ、警備員、施設管理者等）を対象に開催しました。初級編では、アイマスクを使っでの視覚障害者体験、日常で使用できる簡単な手話体験、また、ステップアップ編では障害当事者からの実際の生活を基にしたお話をいただきながら、一人ひとりが多様な人のことを思いやる「心のバリアフリー」の取得を目指しました。
 （内容の詳細については、下段参照）

日時・場所	第一部	第二部
10/25 (火) 空港内 2階有料待合室	①バリアフリー初級編  13:00~14:00 定員30名 バリアフリーについて、学んだ事がない人を対象とした内容です。「障がいとは？具体的にはどのように対応したらよいか？心のバリアフリーとは？」など障がいやバリアフリーについてご説明します。また、アイマスク体験や「こんにちは」「また会いましょう」等、ちょっとした挨拶の手話を学ぶワンポイント手話体験も行います。 講師 国土交通省北陸信越運輸局交通政策部バリアフリー推進課 社会福祉法人新潟市東区社会福祉協議会	②ステップアップ編 14:10~15:10 定員30名 初級編受講またはバリアフリーについてすでに学んだ事がある人が対象です。障がいをお持ちの方のお声を聴き、更なる知識習得、ホスピタリティ向上につながる内容です。 講師 障がい当事者様 2人 【車いすユーザー(身体障害)、弱視の方(視覚障害)】 【講演内容】 1.ご自身の障がいについて 2.障がいについてスタッフへ伝えた事 3.障がいをお持ちの方が飛行機に乗る時に知ってほしい事 4.新潟空港では、こんな事をお手伝いしてほしい
	③バリアフリー初級編  ※10/25と同じ内容です。 13:00~14:00 定員30名 バリアフリーについて、学んだ事がない人を対象とした内容です。「障がいとは？具体的にはどのように対応したらよいか？心のバリアフリーとは？」など障がいやバリアフリーについてご説明します。また、アイマスク体験や「こんにちは」「また会いましょう」等、ちょっとした挨拶の手話を学ぶワンポイント手話体験も行います。 講師 国土交通省北陸信越運輸局交通政策部バリアフリー推進課 社会福祉法人新潟市東区社会福祉協議会	④ステップアップ編 ※10/25と講師が違います。 14:10~15:10 定員30名 初級編受講またはバリアフリーについてすでに学んだ事がある人が対象です。障がいをお持ちの方のお声を聴き、更なる知識習得、ホスピタリティ向上につながる内容です。 講師 障がい当事者様 2人 【盲導犬ユーザー(視覚障害)、聴覚障害の方】 【講演内容】 1.ご自身の障がいについて 2.障がいについてスタッフへ伝えた事 3.障がいをお持ちの方が飛行機に乗る時に知ってほしい事 4.新潟空港では、こんな事をお手伝いしてほしい



NP0法人スペースBe
理事長 山崎 勉 氏

モトクロスバイクの事故で頸髄を損傷した影響で、車いすで生活しています。普段は就労継続支援施設に勤務しながら福祉活動の一環として小中学校で障害についての講演も行っています。



新潟県視覚障害者友好協議会
女性部長 富永和美 氏

生まれつき視力に障害があり白杖を使用しています。現在東区ではり・灸・マッサージ治療室を営む他、視覚障害者友好協議会事務局でも活動しています。患者さんとは身体だけでなく心のケアも大切にしています。



新潟県盲導犬ユーザーの会
事務局 上林洋子 氏

39歳の時、線内障が原因で全音になりました。全音になってからも多趣味で編み物や短歌を楽しんでいる他、長きにわたり小学校で講演をしています。同会の会長も歴任。



NP0法人にいまーる
理事 日井千恵 氏

新潟市江南区(亀田駅西口徒歩1分)で就労継続支援B型手楽来家(てらこや)とグループホームかめこやで、ろう者と難聴者の就労・生活支援を行っています。新潟大学や医療福祉大学で手話を教える活動もしています。



(参加者の声)

- 障害についての基本的な知識を知ることができる良い機会だった
- 「大丈夫ですか？」ではなく「お手伝いしましょうか？」の声のかけ方については参考になった
- 障害の種類もケースも多様なので、まずは声かけを実践して希望や要望を聞いてあげることが重要だと思った
- 障害をお持ちの方はもちろん、お客様ひとり一人に対して丁寧な接客をしていきたい
- 今までは接し方が分からず避けていたところがあったが、講話の内容を活かしてこれからは積極的に対応していきたい
- 自身も標識などを意識しながら生活していこうと思った
- 空港でのチェックイン、搭乗、到着などで使える手話の講座があると良い
- 手話を学ぶ環境に自分から入って、若いうちから手話でコミュニケーションを取れるようになりたい
- 折り紙体験がとてもよかった
- 当事者の方からの本音が聞けたので、今後を活かしながら新潟空港がよりよい施設になるよう努めたい
- 講話で紹介のあったコミュニケーションボードを、保安検査場にも導入していきたい
- 定期的に開催していただき、より多くの館内スタッフが受講できた方が有益だと思う
- 新潟空港をバリアフリーという観点で施設点検していただき不安全箇所を確認していただけたらと思った



【手話講座】

【アイマスクをしての折り紙体験】

日 時：令和4年12月1日（木）9：10～12：20
 場 所：富山短期大学 キャンパス内
 主 催：北陸信越運輸局
 協 力：富山地方鉄道株式会社、富山県タクシー協会
 対象者：富山短期大学幼児教育学科の学生（77名）

○実施概要

富山短期大学幼児教育学科の学生を対象に、バリアフリーについての理解を深めることでボランティア意識を高めていただき、誰もが高齢者等に対し「お手伝いしましょう」とごく自然に声をかけて快くサポートできる社会（心のバリアフリー）の構築を目指すことを目的にバリアフリー教室を開催しました。

当日は、手や足に重りを付けたり、白内障を再現したゴーグルを着用した高齢者疑似体験や、目が見えない状態で折り紙を折ってもらう視覚障害者疑似体験、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーに乗降する車椅子体験などを実施しました。

○参加者の声

～高齢者疑似体験～

- ・介助をしてみても、色々な視点で学校を見ることができた
- ・自分の祖父がこのような体感だと分かり関わり方の見直しをしようと思った
- ・パートナーが視界が悪いと言って度々ぶつかっていたので、誘導は大切だと思った
- ・トイレの手すりの大切さを感じた
- ・本人がしようとしてもできないことを否定するのではなく、どのような方法がよいかを考えて丁寧に向き合っていきたいと思った

～視覚障害者疑似体験～

- ・見えないからこそ、「どこ」に「何を」と具体的に伝えることが必要だと感じた
- ・説明する側の時に、適切にわかりやすく説明できず「違う！」ばかり言ってしまって相手の気分を悪くさせてしまった
- ・目が見えなくてどうしたらいいかわからなかったけど、パートナーがわかりやすく伝えてくれたことで安心することができた
- ・言葉だけで伝える難しさを感じたので、わかりやすい言葉をかけてあげるよう心がけたい
- ・人に説明する力を高めることができた

～車椅子体験～

- ・乗っている人が安心できるように、段差を通るとき以外も声をかけてあげることが大切だと思った
- ・バスやタクシーに車椅子で乗る体験はなかなかできないのでいい経験だった
- ・バスへの乗車がすごく怖かったし、不便さをすごく感じた
- ・最初は楽しそうだと思ってお手本を見ていたが、実際に体験してみると体力が必要で支援する側の大変さを知った
- ・車に乗り込むという1つの動作が増えることで、支援する側の平地を移動する時とは違った工夫が必要



【車椅子体験(ノンステップバス)】

【車椅子体験(UDタクシー)】



【高齢者疑似体験】

【視覚障害者疑似体験】

北陸信越運輸局の取組み④

日時：令和5年2月13日（月）9：35～11：25
 場所：新潟市立中之口東小学校
 主催：北陸信越運輸局
 協力：西蒲区社会福祉協議会
 対象者：新潟市立中之口東小学校 4年生児童（20名）

○実施概要

新潟市立中之口東小学校の児童を対象に、バリアフリーについての理解を深めることを目的に、バリアフリー教室を開催しました。

当日は、車椅子体験を実施。児童らがペアを組んで車椅子の使用者役と介助者役に分かれ、それぞれの立場から体験しました。

今回の体験をとおして、普段の生活の中で車椅子を使用される方にとって、どのような支援が必要になるか等を学びました。

○参加した小学生の感想（代表者抜粋）

福祉では、相手の立場になってみるのが大切だと思いました。これまで、体や目が不自由な人の生活を大変で嫌なことばかりだと思っていました。しかし、たくさんの学習をして、周りや世の中には助けてくれる人がたくさんいる事が分かり、嫌なことばかりじゃないと分かりました。

私は、今日初めて車いすに乗りました。車いす体験では、短い坂道やゆるい坂道でも、登るのが大変な事が分かりました。その時、車いすに乗っている側は、坂道をななめになって登るので、すごく怖いことが分かりました。でも、車いすを押してくれる人から声かけをもらえると、怖い気持ちが少しやわらぎました。声かけがすごく大切なことが分かりました。また、車いすによる多目的トイレの使い方を学習しました。車いすでトイレに行くとき、せまいトイレではなく、大きな広いトイレに入ります。中をよく見ると、鏡の場所が普通のトイレとちがったり、手すりがあったり、手を洗う所が2つあったりしました。1つの手洗い場は車いすが奥まで入れる作りで、手洗いしやすかったです。さらに、坂を下る時は、前を向いて下りるのではなく、後ろを向いて下りるようにすることが分かりました。

もしも学校の帰り道などで、車いすに乗っている人が困っていたら、今日習った事を生かしたいです。

【基礎編】

体育館に疑似体験コースを作って車椅子の操作方法、介助方法を学習



校舎内の設備を（車椅子に乗って・車椅子を押して）体験



【多目的スペース(スロープ)】



【玄関(スロープ)】



【手洗い場】



【多目的トイレ】



【玄関(段差)】



【手洗い場】